

- ・海外事務所、協定校 …… (1)
- ・留学生関係行事 …… (2)・(3)
- ・新センター長挨拶 …… (4)
- ・センターから …… (4)

## チュラロンコン大学海外事務所設置・訪問

4月25日タイ王国の王立チュラロンコン大学内に「秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室」を開設しました。当日は、チュラロンコン大学地質学科のCHAROENTITIRAT学科長、PUNYA准教授ほか教職員・学生が立ち会う中、看板の設置・研究室内の整備を行いました。

その後、同学科長ほかチュラロンコン大学のスタッフと共同研究室の運営方針・大学間共同研究・秋田大学の留学生受け入れ体制等について、情報交換・打ち合わせを行いました。本共同研究室は、当面チュラロンコン大学地質学科との共同研究に使用する他、秋田大学の広報、留学生受入情報の発信などを行います。

また、翌日には秋田大学に短期留学を希望する学生らとも面会し、秋田大学や秋田市内の様子を直接説明することができました。

チュラロンコン大学はタイの首都バンコクに位置し、1871年ラマ5世（チュラロンコン大王）により設立された近習団学校を前身とするタイ最古にして最高クラスの大学です。現在は19の学部のほか様々な研究所、センターなどを有する総合大学となっています。大学のキャンパス

内や周辺の雰囲気は明るく、隣接して北に商業施設のサイアムスクエア、南には大学附属の病院、整備された公園などがあります。また近隣には近代的な雰囲気につつまれながらも、金色に輝くタイの仏教寺院が点在し、道路には3輪タクシーのトゥクトゥクが荒々しく走り、歩道には洋服・小物・タイ料理やドリアンなどの果物を売る屋台が並ぶなど、タイらしさも残る地域でした。

今後はこの共同研究室を起点に秋田大学とチュラロンコン大学との間での有意義な教育研究活動の交流を行っていきたいと思います。



(赤津光洋：国際課)

## ルレオ工科大学との協定

5月9日、スウェーデン王国ルレオ工科大学との間に大学間連携協定が締結されました。ルレオ工科大学は、地球上で最北端に位置する工学系大学ですが、近年の資源ブームを背景に、スウェーデンが誇る鉄鋼石を始めとする資源系技術者育成機関として欧州全体で注目されている大学です。

協定書署名のため秋田大学を訪問したステルツ学長は、テレビ局（秋田放送）とのインタビューで、世界各国の資源系の一流大学との連携を進める中、日本で最も優れた資源系大学である秋田大学との交流に大きな期待感を表明しました。また、ステルツ学長に同行したグロンランド教授は、午後開催された講演会で資源系学生を前に、現在、世界中で人材ニーズが高まっている資源分野で学んでいることを祝福し、地球規模の課題である資源問題に貢献できる人材となるよう熱く激励しました。資源系教育研究分野で先端的な役割を果たしているルレオ工科大学との連携構築が強く望まれる処です。



(高橋嘉行：国際交流推進役)

## 幸せの国ブータンを訪れて

秋田大学は、2012年6月に日本の大学として初めて王立ブータン大学と大学間協定を締結しました。この交流事業を具体化すべく、2月25～27日に篠原ひとみ教授（医学系研究科）、西田文信准教授（国際交流センター）、吹谷美穂さん（国際課）と小生の4人でブータンを訪れました。2月25日にパロ病院、26日は大学本部、伝統医療院、伝統技芸院、そして27日には国立ティンブー病院、王立健康科学院（RIHS）を訪問しました。現地の光景はどれも刺激的で、仏像の絵画や彫刻などに目を輝かせながら一心に実技に励んでいる伝統技芸院での若者の姿には特に感銘を受けました。

滞在2日目にはブータン大学本部でのティンレー副学長（学長は第5代ワンチュク国王）と会談し、秋田大学とは医療分野（特に看護）における協力体制を構築して事業を実施したく、教員を一学期間程度派遣していただきたいとの具体的な申し出も受けました。先方の言葉を借りれば、秋田大学のような規模の大学との協定にこそ強い期待を持っているとのことでした。

各種インフラの整備や流通の発展とともにブータンの医療も急速に進歩していくことは確実であり、それを担うべき若者の数も少なくありません。秋田大学がブータンの発展を様々な形で支援することができれば幸せです。



(浅沼義博：大学院医学系研究科 教授)

## 新入生オリエンテーション, 歓迎式

8カ国41名の留学生が、この4月から新たに秋田大学で学び始めました。4月4日午後、国際交流センターでは新留学生を対象に、「春季新留学生のためのオリエンテーション」を実施いたしました。このうちの13名は、4月からあらたに開始した短期留学プログラム「AUAJプログラム（秋田大学アカデミック・ジャパニーズ習得のための特別留学プログラム）」に参加しています。このプログラムは、高度な日本語運用能力を持った学生を育成することを目標としたものです。オリエンテーションでは、日本語プレースメントテスト、国際交流センター長からの歓迎の挨拶、留学生一人ひとりの自己紹介に続き、秋田大学で留学生活を行う上での心構えや諸注意などの説明が行われました。

オリエンテーション終了後は大学会館に場所を移し、留学生のための歓迎会を行いました。歓迎会に参加いただきました三吉南町町内会、田中町内会（留学生会館・国際交流会館周辺の町内）のみなさまから温かい歓迎のことばを頂き、緊張していた留学生たちの表情もゆるんだ様子でした。また、当日は催し物として、秋田大学混声合唱団「A. Choir」のみなさんから歌のプレゼントを頂き、感極まった留学生の姿もありました。三吉南町町内会、田中町内会、A. Choirのみなさまにはあらためて感謝を申し上げます。



(国際課)

## 蘭州大学訪問

2月20・21日に中国・蘭州大学を訪問し、事務職員の相互交換研修に関する打合せを行いました。蘭州大学とは平成17年に大学間協定を締結して以来、毎年留学生を受入れていることに加え、過去には蘭州大学の職員が秋田大学で研修を行ったこともあり、秋田大学にとって非常に馴染み深い協定校のひとつです。秋田市と蘭州市は姉妹都市となっていることもあり、蘭州大学の皆さんもわたしたちに親近感を持っているようでした。

近年は協定校や留学生数の増加に伴い、わたしたち事務職員にとっても語学力や異文化への対応力が不可欠となってきているように感じます。そのような能力向上のため蘭州大学で数ヶ月間の研修を行うことを企画しております。

私たちが訪問した時期が春休みだったため、キャンパス内は閑散としておりましたが、それがかえって大学の規模の大きさを際立たせているように感じました。あらためて中国の規模の大きさを感じるとともに、国内で行われる研修とは違った意義深いものになるのではないかと考えています。

(滝川敏生：国際課)

## 派遣留学説明会

5月22日に秋田大学から留学を希望する学生を対象に海外留学説明会を開催しました。秋田大学交換留学制度の説明の後、台湾の龍華科技大学に留学をしていた大塚寛子さん（教育文化学部4年）と、フィンランドのケミ・トルネオ応用科学大学に留学をしていた江村拓郎さん（工学資源学研究科 博士前期課程2年）が、留学体験談を発表しました。会場には30名を超える留学希望者が集まり、熱心に耳を傾けていました。

また、新しい試みとして、「留学ウィーク」を開催しました。これは、現在秋田大学で学んでいる協定校からの交換留学生らが、それぞれ母校の大学紹介を行うものです。これをきっかけに自分に合った留学先を見つけて、より多くの学生が留学に行けるよう願っています。



(正木康子：国際課)

## Paper Balloon Festival in Kamihinokinai

Being an international student at Akita University, we are given many opportunities to experience in first hand the culture and tradition of Japan. One of such events was the Paper Balloon Festival in Kamihinokinai on February 10th 2013, followed by a farm stay experience.

Despite the snow and cold, the Festival in itself was very pleasant. The balloons had many different patterns; some had traditional Japanese style art, while others had drawings made by local children, accompanied by messages of their wish for the future. The size of the balloons was much bigger than many of us expected, and their light, in contrast with the dark sky and the falling snow, gave the audience a feeling of awe and magic.

The farm stay that followed was also very enjoyable. The students were divided in small groups and went to different families, so their experiences varied. In my case, we ate delicious food prepared with a variety of mushrooms and plenty of chestnuts in a room with a warm rustic wood burning stove, where we spend the night chatting. The next morning, we made sweets using mocha rice and powdered chestnuts, decorated with dried flowers. Some people in other houses woke up very early and visited lake Tazawa and other nearby places.

All in all, it was a wonderful couple of days, and I hope to have more similar experiences while in Japan!

(Inês Marques：教育文化学部 日本語・日本文化研修留学生)

## 日露留学フェア

秋田市の姉妹都市であるロシア・ウラジオストクにおいて開催された日露大学合同説明会に参加しました。

極東連邦大学で3月15日に行われた本説明会には、日本からは秋田大学を含めて9大学が参加し、訪れた学生は会場全体で約300名、予想を上回る来場者数だったそうです。

秋田大学のブースには約30名が訪れました。学生のほとんどは、日本へ短期留学をした経験があり日本語が堪能で、「秋田大学にはどのような専門分野が学べるのか」「○○の専攻はあるか」などについて多く質問が寄せられ、日本への留学に対する関心の高さがうかがわれました。

(吹谷美穂：国際課)

## JST中国国際教育巡回展及び日中産学連携セミナー

平成25年3月8日～13日に、教育文化学部の杜威教授、宮崎国際課職員、市嶋でJST中国国際教育巡回展と日中産学連携セミナーに参加しました。巡回展には、秋田大学機械工学科の卒業生、センイチムクさんが秋田大学のブースに足を運んでくれ、巡回展の手伝いをしてくれました。センイチムクさんの中国語による留学経験の話に、多くの留学希望者が熱心に耳を傾けていました。巡回展の担当者によると、日本からの参加大学の中で、秋田大学のブースに一番多くの訪問者があったとのことでした。今後も学部の教員や卒業生と連携しながら、留学フェアに参加していけたらと思います。(市嶋典子：国際交流センター 助教)

3月17日～19日に中国の北華大学に行ってきました。昨年12月に本学と国際交流協定を締結して以来、秋田大学から初めての訪問者です。両大学が今後行うべき交流活動の詰めが今回の訪問の主な目的であり、外国語学院、国際教育交流学院、教育科学学院、数学と統計学院、医学部などの部局と、学生交換の実施、研究者交流及び共同研究の進め方などについて話し合いを行いました。北華大学からの最初の交換留学生在が今年の10月から来ることになりました。

北華大学は31の学院 (College) があり、学部学生だけでも2万人以上の大きな大学です。語学教育を主に行う国際教育交流学院や、宿舍の完備など、留学生の受入れを積極的に行っています。大学のある吉林市は、松花江という大きな川が逆S字の形で市の中心部を流れ、周りに長白山につながる山脈で囲まれる自然の豊かな都市であり、「河灯」(小型のねぶたのようなものを川に浮かべて展示する祭り) や、市民が参加する大型音楽会など様々な文化活動を盛んに行われる文化生活も非常に豊かな街です。中国への留学先として魅力のある選択肢の1つとなります。



また、訪問中に数学と統計学院にて「日本数学教育の現状と課題」という講演を行い、北華大学から客員教授の称号を頂きました。

(杜威：教育文化学部 教授)

## ブダペストとプラハでの短期海外研修

平成25年2月27日～3月14日、カーロリ・ガシュパル大学 (ブダペスト) とカレル大学 (プラハ) において、短期海外研修を行いました。参加者は院生2名と4年生2名で、事前に、社会主義時代の出来事と民主化後の社会・経済問題について学習し、渡航後はブダペストJETROと国際交流基金を訪問し、ハンガリーの経済状況と現地での文化活動について情報を収集しました。

両大学では、東北の祭り、秋田弁と庄内弁の言語学的特徴、日本の妖怪について英語と日本語によるプレゼンテーションを行いました。また、英語科の授業を受講して、日本との英語教育の違いを体験しました。4月から英語教員になることが確定していた3名の学生にとっては、キャリアを積む上で、貴重な経験ができたようです。



(Emma Morita：教育文化学部 教授)

## グリフィス大学留学記

2月18日から3月15日までオーストラリア、グリフィス大学ゴールドコースト校での語学研修に参加しました。

授業は月曜日から金曜日にかけて8時15分から12時45分まで行われ、ペアやグループでのディスカッションする活動を多く取り込んだ内容になっていました。先生たちは明るくユーモアにあふれており、楽しく学ぶことができました。日本人の他には中国、韓国、ロシア、ベトナム、クウェート、サウジアラビアからの参加者が多く、年齢層も多岐に渡っていました。英語でのコミュニケーションを通して様々な国の文化や考えを知ることができ、視野を広げることができました。

ゴールドコーストは自然が豊かな場所でした。ビーチにいくと見渡す限りの海が広がり、日本では見ることでできない景色を目の当たりにしました。オーストラリアの夏は日差しがとて強く気温も高いのですが、湿気が少ないため汗をかかずに夏を満喫することができました。治安も良く、人もあたたかくて充実した1カ月を過ごすことができ、研修に協力してくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。



(岡部詩歩：教育文化学部 国際言語 欧米文化 研修当時3年次/現4年次)

## 国際交流センター人事情報 (4月1日付)

### 【着任】

国際交流センター長 兼 副学長 (国際戦略担当)  
国際交流センター専任教員 (助教)  
国際課主査 (留学生交流・支援担当)

山本 文雄 (大学院医学系研究科教授)  
楊 帆  
赤津 光洋 (医学系研究科・医学部企画管理課主査)

### 【異動】

国際交流センター長 兼 副学長 (国際戦略担当)  
国際交流センター専任教員 (准教授)  
国際課主査 (国際資源学教育研究センター担当)

榎本 克彦 (退職)  
西田 文信 (転出)  
加賀屋聡一 (経理・調達課主査)



## 新センター長挨拶

2013年4月1日より国際交流センター長を拝命いたしましたので御挨拶申し上げます。これまで国際交流センター長は、田中俊誠教授(産婦人科学講座)、榎本克彦教授(分子病態学・腫瘍病態学講座)が務められました。国際交流センターについては、その時分から広報紙や教授会等を通じてある程度の情報は得ておりましたが、交換留学生に係わる業務が主たるもので、具体的には他国から来た留学生のお世話をしているのだろうと想像しておりました。

センター長に就任し、国際交流センターの多岐に渡る業務に携わるにつれて、それまでの考えをあらたにすることとなりました。各大学が鎔を削って国際化に取り組む中、国際交流センターが担っている世界各地の大学との協定活動や、来年度に発足する国際資源学部の発展如何には秋田大学の命運がかかっております。国際交流センターの活動は大学評価自体にも影響を及ぼし、国内での地位向上は言うに及ばず、秋田大学の存在意義も問われかねない事態になりうる状況であることを理解した次第であります。

センター長に就任し、国際交流センターの多岐に渡る業務に携わるにつれて、それまでの考えをあらたにすることとなりました。各大学が鎔を削って国際化に取り組む中、国際交流センターが担っている世界各地の大学との協定活動や、来年度に発足する国際資源学部の発展如何には秋田大学の命運がかかっております。国際交流センターの活動は大学評価自体にも影響を及ぼし、国内での地位向上は言うに及ばず、秋田大学の存在意義も問われかねない事態になりうる状況であることを理解した次第であります。

私事ですが、資源獲得に向けた世界各国の動向と、日本のこれからの取り組みには関心を持っております。その一端として昨年次に起こりました尖閣諸島沖中国漁船衝突事件をめぐる中国との緊張関係は、連日の報道を受け、我々門外漢もその展開を心配いたしました。阿部政権下ではアフリカ諸国とのより親密な協力関係を構築し、資源獲得への布石を次々と打たれているようです。

秋田大学は資源領域では歴史的にも日本のトップクラスの活動実績を持っております。このアドバンテージを大いに利用して、国際戦略を展開したいと考えております。今年度を国際交流躍進の年と位置付けて、諸々の活動に取り組んで参りますので、どうか皆様のご助力をお願いしながら私の挨拶に代えさせて頂きます。

(山本文雄：国際交流センター長)

## プログラム紹介

2013年4月より開始した「秋田大学アカデミック・ジャパニーズ習得のための特別交換留学プログラム」が、新たに日本学生支援機構の「留学生交流支援制度(短期受入れ)奨学金(交流協定留学型)」に採択されました(15名に月8万円の奨学金給付)。大学間協定校からの交換留学生のうち、特に高度な日本語運用能力を有した留学生を対象とするプログラムで、日本語の学習ではなく日本語による学習を目的としています。また奨学金の給付にあたっては、本学からの学生を受け入れた実績のある協定校を優先することとしました。このプログラムにより、教育研究の質の向上に貢献してくれる優秀な留学生の受け入れ、そして本学からの学生派遣の活発化をめざしています。なお、2010年度に開始した、日本語能力を有しない交換留学生のためのプログラム「秋田大学AUEP(Akita University Experiential Program:秋田大学国際交流体験プログラム)」も、継続して上記奨学金制度に採択されています。

(牲川波都季：国際交流センター 准教授)

## 担当教員よりひとこと

2013年4月に国際交流センターに赴任した楊帆と申します。専門は日本語教育学で、留学生への日本語教育や国際交流に興味を持っております。日本語教育学の分野では特に、教室活動や学習者とのインタラクティブに関心を持っており、誤用訂正というテーマで研究も進めております。

かつては私自身も1人の留学生として、日本の大学で勉学・研究に励みました。留学生にとって各学習段階における課題や、留学生たちが抱えている様々な悩みを身に染みるほど知っており、理解しております。彼らの学習と生活に少しでも役に立つように、些細ながら力になればと思います、現在の仕事に取り組んでいます。

「玉磨かざれば光なし」は私の座右の銘です。留学生たちはまさに野外の鉱山から見つかった原石で、これからの学習・研究、さまざまな体験と試練を通して益々磨かれ、いずれ誰もが望むような輝かしい「玉石」になるでしょう。その日が早く訪れることを楽しみにしております。(楊帆：国際交流センター 助教)



### ■研究費採択情報

(1)文部科学省科学研究費補助金 研究成果公開促進費(学術図書)日本語教育における評価と「実践研究」(単著)(新規)  
(2)文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B) 実践研究理論構築のための調査研究-実践と教育制度との関係をてがかりに(研究代表者)  
2012年-2015年(継続)

市嶋 典子  
牲川波都季

文部科学省科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「複言語・複文化能力理念再構築に関する基礎研究-農業従事者の異質性対応方略と思想-」(2012-2014年)継続

### ■国際交流協定校情報

大学間協定(合計22ヶ国・地域:44大学等) 部局間協定(合計8ヶ国・地域:15学部等)

(2013年5月9日現在)

### ■秋田大学の留学生数

合計197名 学部生:101名 大学院生:43名 交換留学生・研究生等:53名

(2013年5月1日現在)